

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	① 安定した雇用を創出します			
プロジェクト名	3-1-1 宮田方式を活用した農業活性化プロジェクト			
ねらいと効果	宮田村には今から35年も前に生まれた「宮田方式」と呼ばれる一村一農場を目指した独自の農業システムがあります。そうした宮田方式を活用して、農業の活性化を図ります			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	宮田方式により農地の貸出や集約が可能 なため、耕作放棄地の発生を防ぐととも に、新規就農者の参入を推進します。	農業委員会、(農)みやだ、地区営農組合、 JA上伊那、農地中間管理機構と連携により 毎年実施。	A
	②	農業体験(農業インターン制度)を積極的 に活用し、新規就農者の確保や育成を目 指すとともに、受け入れ側の農業者への 支援を推進します。	果樹を中心とする園芸作物の新規就農者(担 い手)確保に向け、積極的に農業インターン 制度を活用(H10以降17名うち14名就農継続 中)。近年、県の里親制度で3名うち1名就 農、2名が就農予定。	B
	③	新規就農者支援として、就農支援制度、住宅の 整備・確保や研修プログラム新設、金融機関と 連携した経営相談を行います。	以下の体制でサポートを実施している。 ①経営・技術…県普及センター、JA営農 ②資金…JA融資 ③農地…農業委員会(営農組合)	B
	④	農業の6次産業化(※)を図るとともに、首都圏との連携・流通を支援し、交流を通じ て農業の活性化を推進します。	山ぶどう、大豆等現在の取組以外について、 具体の検討を継続。 29年度は南信州Bとの連携で宝剣岳Ale、ヤ マソーホップに取り組んだ。	B
	⑤	循環型農業の導入の検討を進め、安全で 安心な宮田村の農産物のPRをはかり、農 業の活性化を推進します。	豚糞と苜蓿培地を活用した堆肥の生成試験 を実施中。 実用化に向けた生成量の規模拡大は今後の 課題。	C
	⑥			
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 農業インターン制度活用者数(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	19	14	14	16		
	達成率		74%	74%	84%		
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	産業振興推進室						
改善 (Action) 今後の方針	園芸品目の担い手は、JA上伊那の農業インターン制度と県の里親制度により平均してコンスタントに確保できているが、(農)みやだが担う土地利用型作物について、当該法人での雇用者の確保も見据えた経営の方向付けと整理を行う。						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山ぶどうについては宮田は早くから特色を出してきたと思うが近年近隣でも多くワインが作られ「宮田」独自の色が薄れているように感じる。生産者の声からも前年のワインを売り切っていないのに、さらに増産してでもダメなのではというものが出ています。</li> <li>・白ワインの名前も一方的に決まっていたような話も聞き、実際に生産されている方とのずれが生じているようにも感じる。</li> <li>・農業の魅力をいかに発信していくかがポイントと考える。また、何を売りとしてどう売り出し何を目的とするかきちんと物語を作ることが大事だと感じる</li> <li>・果樹については高齢化によりできなくなった人の圃場が出てくるのでスムーズにインターンへ移行ができています。</li> <li>・野菜についてはすでに土地利用型の担い手が農地を確保しているため集まりにくい。</li> <li>・循環型農業の実用化はなかなか難しい</li> <li>・村内に耕作放棄地がほとんどないことはとても良い。</li> <li>・高齢の農家さんと若者のマッチングがよりうまくいくような取り組みに期待する。</li> <li>・現状計画通りと思われる。今後どのようにしてインターン・新規就農の募集やPRをしていくか。また、受け入れ農家をどう増やしていくか。</li> <li>・目標は達成していないが担い手はコンスタントに確保できている。</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	① 安定した雇用を創出します			
プロジェクト名	3-1-2 地域資源を活用した産業振興・創出プロジェクト			
ねらいと効果	今日まで蓄積されてきたノウハウを活用した産業の振興を図るとともに、宮田村の地域資源を活かした新たな産業の創出を推進します。また、若者が将来のキャリアを描くことができる仕事を増やしていくことにより、転出者の抑制や転入者の増加を図ります。			
実施内容	計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)	
	①	農業、製造業、観光業等に対する補助制度の拡充・新設の検討を進めます	創業支援助成金の設置。(村内に住所を有する個人または村内に主たる事業所を有する法人であること。50万円以内)	B
	②	宮田村での起業者や起業希望者のために、空き店舗の紹介やワーキングスペースの確保について支援をします	現状未実施ではあるが、ワーキングスペースの確保については空き店舗の情報等を探し、場所の確保を進めていく	C
	③	ICTを活用し、民間企業等の多様な主体と連携してテレワーク導入やサテライトオフィス進出の支援を行います。	現状未実施であるが、ワーキングスペースの確保と連動し、テレワークやサテライトオフィスのどの乳に向けて検討を進めていく。	C
	④	長野県内や大都市圏の高校、大学等と連携し、産業に新たな視点を導入することにより、ビジネスチャンスを生み出します	現状未実施であるが、関係する大学等と情報交換を進め事業実施に向けて検討を進めていく	C
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 村内従業者数(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	3900	3821				3900
	達成率		98%	0%	0%		
	② 農事組合法人みやだ組合員数(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	700	696	714	721		
	達成率		99%	102%	103%		
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	産業振興推進室						
改善 (Action) 今後の方針	<p>・ワーキングスペースの確保やサテライトオフィスの誘致等にむけて場所の確保をするために、空き店舗の活用を進めていく。</p>						
委員評価	委員意見						
C	<p>・起業支援では、既に村内で創業した若手経営者とこれから起業しようとする人の交流の場があれば良い気がする。(地域おこし協力隊を含む)。コアワーキングスペースは運営も大変だともうので、村人テラスなどで定期的実施するのも一手だと思う。</p> <p>・②～④の計画が実施されていくことを期待する。</p> <p>・民間事業者の発想と行動力の応援。空き店舗活用を進めるのであれば、土地と建物の所有者分離の現状を打開する方策を考えることが先決と考える。やり方は色々あるかと思うので一つのやり方に固執しない。</p> <p>・狙いと効果は村にとってとても重要なことなので、実施できるように改善できるとよい</p> <p>・計画段階で未実施が3項目あるので再度計画の見直し検討を</p> <p>・空き店舗やサテライトオフィス進出支援については、事業が未実施であった。地域における産業振興・創出は非常に難しい課題であるが、新しい働き方の検討という意味も含めて事業の推進を望む。</p> <p>・助成金制度は創設されたが活用されていない。もっと企業へPRを</p>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	① 安定した雇用を創出します			
プロジェクト名	3-1-3 雇用マッチング促進プロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	村外の大学等へ進学した若者が宮田村に戻ってこない要因として、東京をはじめとする大都市圏の企業への就職を希望することが考えられます。したがって、宮田村のみならず上伊那地域や長野県内にある企業との連携により、雇用のマッチング、宮田村出身者のUターンの促進を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	卒業後、一定期間を宮田村に居住・就業することなどを条件に、日本学生支援機構、金融機関と連携した奨学金制度を設けます。	未実施ではあるが、利子補給等の導入等検討を始めている。	C
	②	長野県内や大都市圏の高校、大学等と連携し、企業見学ツアーを行います。	上伊那広域連合と連携し、企業研究会の開催や就活準備合宿時の企業見学、3月の就活バスツアーを実施してきた、	A
	③	長野県内や大都市圏の高校生、大学生等を対象として、民間企業と村役場へのインターンシップを推進します。	村内民間企業ではインターンシップの受け入れを始めた。役場は日本福祉大学のインターンシップの受け入れを実施している。	B
	④	宮田村に居住することなどを条件に、民間企業でのお試し就業を実施し、雇用のマッチング促進を図ります。	就活バスツアーや移住相談からお試し就業に結びついた。企業側も雇用確保に向け取り組みを進めている。	B
	⑤	上伊那地域の自治体や長野県内にある企業との連携し、雇用のマッチングを図り、宮田村への居住を図ります。	上伊那企業研究会等の開催や、企業訪問等によりUターン者の雇用マッチングの相談を行い雇用に繋げてきている。	B
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① お試し就業から正規雇用と移行した人数(人)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	25	0	0	4			
	達成率		0%	0%	16%			
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	産業振興推進室						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金制度については、村単独で奨学金制度を創設することは困難なため、教育ローン等の利子補給等に向けて検討を進める必要がある。</li> <li>・民間企業、長野県等と連携し学生及び学校に対し地域の企業のPRを更に進める必要がある。</li> <li>・ハローワークの求人情報等のオンラインでの利用や無料職業紹介等の開設に向けて検討を進める必要がある。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTubeやSNSなど若手が目にする媒体と活用できるとよいと思う</li> <li>・奨学金制度についてはやっている自治体もある。実施に向けて検討を進めてほしい</li> <li>・②～④の方向性も良いのでこのまま続けて内容を充実させてほしい</li> <li>・宮田村内企業のPV作成等行い、大学、専門学校等へのトップセールスをかけるとよいのではないかと。また、日本福祉大学と連携してある意味を考えてほしい。(社会福祉士としての雇用等)</li> <li>・宮田村だけでなく、上伊那の企業へ就職してもらえれば良いので、やはり親が地元への就職をしっかり進めるべき。</li> <li>・取り組みはよいが、目標値に届いていないので、改善点である情報発信に工夫した方がよい</li> <li>・企画自体は良いものであるが実が伴わないのであれば再検討を</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。上伊那広域連合や大学、民間事業者等と連携し、積極的に事業を実施することで、その効果が徐々に現れはじめていると思われる。今後は、金融機関との連携も視野に入れて、若年層が宮田村に戻ってきやすい環境の整備を望む。</li> <li>・商工会との連携をもっと強化していけばよい。</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	3-2-1 みやだ結婚・子育てプロモーションプロジェクト			
ねらいと効果	宮田村の優れた自然環境や暖かい人間関係の下で、新たな出会いと結婚、子育てをすることの素晴らしさを積極的にアピールし、その結果、若い世代が、結婚・出産・子育てを前向きにとらえ、子どもの笑い声にあふれたむらづくりを実現します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	宮田村での子育ての体験などをポジティブに独身世代に伝えていくため、村内で結婚・出産した若い世代による、結婚プロモーションビデオなどの映像資料を作成します。	未実施であるが、大学生が以前「宮田においでよ」を作成したものがある。そういったものの活用も検討する	C
	②	「宮田村子育て支援センターうめっこらんど」などの利用者、体験者の実感に基づき、出産・子育てに関する情報をまとめた、子育てマップやリーフレットを作成します。	子育て情報誌うめっこを刷新。	B
	③	先輩パパ・ママと独身世代との交流会を開催し、体験を伝えることで、独身者の結婚に対する前向きなイメージを醸成します。	未実施	C
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 未婚率(%)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	33	40.07					
	達成率		121%	0%	0%			
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	福祉課、社会福祉協議会						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度に創設した事業所内結婚支援員等との連携をする中で、各種事業の実施方法を検討していく。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTubeやSNSなど若手が目にする媒体と活用できるとよいと思う</li> <li>・結婚、子育てについての事業ができていないと思う</li> <li>・未実施項目2か所とまずは結婚に至るまでをどう企画するか</li> <li>・人口の維持・増加のためには社会増政策だけではなく自然増政策も不可欠である。日本の場合、海外と異なり結婚と出産が密接に関係しているため、その両方へのアプローチが必要になると思われる。独身世代が結婚をイメージしやすくなるような積極的な事業推進を望む。</li> <li>・出会いの場を作ることが大切。</li> <li>・プロモーションビデオを作るのであればセンスの良いものを作る必要がある。</li> <li>・実際子育てしている世代に満足度を聞き、結婚について良い事ばかりではなく悪いこともあることも伝えていくべき。</li> <li>・マッチングは非常に難しいが、何をすればよいか議論をしていく必要がある。</li> </ul>							



宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	3-2-2 結婚マッチングプロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	既存の結婚支援制度の充実化や広域的な結婚マッチングシステムに参加することによって、宮田村在住の独身者が、村内のみならず村外の広域的なイベントや情報などを活用しながら、より自然なかたちで交際状況を活性化し、結婚を促進する環境づくりに取組むことができますようにします。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	宮田村に在住する若者に対して、交流イベントを行います。	未婚者の男女を対象とした体験型イベントを実施。「初夏の恋活パーティー」「フォト日和」「日本代表応援しよう」「スイーツフェス」「みなこいハロウィンパーティー」「大人のクリスマス」「お寺の縁結び」「ナンづくりをしよう」延べ158人の参加中、7組カップリング	B
	②	地区結婚相談員への情報提供を図るとともに、地区結婚相談員の情報や意見を集約して、イベント企画などに反映させていきます。また、スキルアップのための研修やセミナーの開催などを行い、結婚相談員制度の拡充を図ります。	マッチング支援員と地区結婚相談員の情報の共有化が図られている。未婚者を対象としたスキルアップセミナーを2回実施。結婚相談員の研修を2回実施。	B
	③	ながの結婚マッチングシステム(※)に加入し、村外の結婚相談所と連携して情報共有やイベントの企画・実施を通じた結婚支援を進めます	今年度よりながの結婚マッチングシステムに加入し、マッチング支援員が中心となり、情報交換やイベント等を企画。長野マッチングシステムには、8人が登録。	C
	④	結婚相談員に加え、マッチング支援員を配置し、広域的な情報を活用しながら、結婚支援を推進します。また、広域的なイベントへの参加者に対するフォローアップにも努めていきます。	マッチング支援員、地区相談員に加え、事業所内支援員を事業所に配置し広く結婚支援をすすめていく。 村内の未婚者が他市町村に登録しているケースもあり、マッチング支援員が個別にアプローチをかけている。	B
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑨			

KPI	① プロジェクト参加者のカップリング数(組)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	30	0	5	7			
	達成率		0%	17%	23%	0%	0%	
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	福祉課、社会福祉協議会、みらい創造課						
	改善 (Action) 今後の方針	<p>平成30年度事業計画 男性スキルアップセミナー2回、女性スキルアップセミナー1回 体験型イベント5回、社会人交流10回(スポーツ、ゲーム等)</p> <p>宮田村結婚サポートネットワーク会議(マッチング支援員、結婚相談所、事業所支援員、縁結び支援員)を開催し連携をとりながら男女の出会いの場を創出していく。</p>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内では対象が限定されることから、③の取り組みは大切だと思う</li> <li>・平成30年度の事業計画にあるようにどんどんやりましょう</li> <li>・交流イベントは成果が出ていることが読んでわかったので今後も定期的に関っていくことが大切なのではと思いました。</li> <li>・「宮田村に在住する」と限定しなくてもよいのではないかと思います。</li> <li>・交流イベントが結構行われていることに驚いた。マッチング支援員、結婚相談員、事業所支援員、縁結び支援員の体制について知りたい。</li> <li>・趣味を凝らしたイベントが多くとても良い。今後も継続してもらいたい</li> <li>・どうマッチングを普及していくか研究が必要。</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。未婚者の男女を対象としたイベント等の開催で、マッチングの効果が現れはじめていると思われる。結婚・出産は本人の意思が尊重されるべきであるが、希望する結婚・出産ができるような環境の整備を望む。</li> <li>・交流イベントは積極的に行っていることはわかるがカップリング数が少ない。</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	3-2-3 結婚・子育て推進優良事業所(仮)認定およびワーク・ライフ・バランス支援プロジェクト			
ねらいと効果	宮田村周辺(上伊那地域)の事業所を対象に、小規模事業所も含め、従業員の仕事・家庭の両立支援に積極的な事業所の認定・優遇制度を設け、事業所による結婚・子育て支援の推進を後押しします。また、事業所内のワーク・ライフ・バランスを向上させていくための研修や相談事業を実施し、働くことと子育てのバランス向上を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	宮田村内にある事業所に育児休業制度、介護休業制度の整備を促すための研修会・相談事業を行うとともに、経営層および中間管理職に対して、イクボス(イクメンを育成する上司)に関する研修も行います。	平成30年度事業として実施予定	C
	②	支援制度を有していることや、結婚・出産後の就業継続率の高さなどを条件に、宮田村結婚・子育て推進優良事業所(仮)を認定します。	平成30年度事業として実施予定	C
	③	認定された優良事業所をモデル事業所として宮田村のホームページで公開します。また、優良事業所に求人情報がある場合には、宮田村のホームページや広報誌等にて無料で紹介します。認定制度発足後は、他の優遇(例えば、入札時の評価指標として配慮するなど)についても検討していきます。	平成30年度事業として実施予定	C
	④	優良事業所と宮田村役場で定期的に懇談会を開催し、各事業所の取り組みの情報交換を行います。また、新たな両立支援を行う上での経済的援助(助成金等)の可能性について検討を進めます。	平成30年度以降情報交換は実施したい。助成金は検討の必要がある。	C
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 育児休業制度・介護休業制度設置に向けた研修会等参加者(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	30	0				
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%
	② 育ボス支援の研修会(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	30	0				
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%
	③ 認定優良事業所数(事業所)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	10	0				
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%
担当	産業振興推進室、福祉課						
改善 (Action) 今後の方針	平成30年度は企業に出向いての講座を計画している。その後の展開を踏まえ今後の方法等を検討していく						
委員評価	委員意見						
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の実施内容を見て判断</li> <li>・実現されると安心して子育てに関われる人が少しでも増えるのではと期待しています。</li> <li>・県に提出してある「社員の子育て応援宣言」をもっと尊重してほしい。新しい取組でなくても既存のものを発展させてほしい。</li> <li>・これからのことであると思う。なかなか難しい事であると思う。</li> <li>・今日では共働き世帯が増加しており、出産・子育てには民間事業者の理解や支援が重要である。本年度は事業未実施であったが、来年度以降には民間事業者が従業員の仕事・家庭の両立支援に取り組めるよう、積極的な啓発や環境の整備を望む。</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	3-2-4 魅力ある教育環境の整備プロジェクト			
ねらいと効果	多様で魅力ある教育を提供することにより、宮田村に愛着を感じ、村外へ転出していった子どもが宮田村に戻ってくる可能性を高めます。また、宮田村に安心して住み続けてもらうため、子どもの教育環境の充実を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	小中学校にふるさとを思う「郷育」の授業を導入し、宮田村への愛着を深めます。	総合学習の時間において、ふるさと教育、中学生職場体験を通じて愛着を持てるようにしている。	A
	②	宮田村の一村一校の特長を活かし、小中一貫教育や合同授業を推進し、教育環境の充実を図ります。	上越教育大と連携したアクティブラーニングを導入した小中連携の授業研究、小中合同の日を利用した研究を推進している。	A
	③	みやだボンドプロジェクトをはじめとして、小中学校内外での活動に、地域人材や民間人材を積極的に活用し、子どもの多様な教育内容の充実を図ります。	外部講師、学校支援ボランティアを招聘した授業、職場体験等を通じて活動を推進している。	A
	④	多様で魅力ある教育を企画、提供するため、行政組織について検討を進めます。	教育委員会と連携し行政組織と連携した事業が実施できるようにしている。	B
	⑤	ICTを活用した教育環境の充実を推進します。	小中学校にてタブレット端末を導入し一部活用を始めた。	C
	⑥			
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 小中学校の「郷育」の授業実施時間(教育課程全般に占める1年間の時間数)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	30	70	70	70		
	達成率		233%	233%	233%	0%	0%
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	教育委員会						
改善 (Action) 今後の方針	<p>ふるさと郷育やキャリア教育については引き続き授業に取り入れる中で故郷を思う心の醸成に繋げていく。そのためにも大学や各種団体等とも連携し事業を進めていく。 ICTの活用についてはタブレット端末の導入等環境整備に向けた検討をすすめる。</p>						
委員評価	委員意見						
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を活用した取組がまだまだできるような気がします。</li> <li>・「郷育」はある意味大切だと思うが、昨年のキャリアフォーラムの中学生の発表では村を出ていく友人が悪いようなイメージも受けてしまった。村で様々な方に育てていただいた気持ちを大切に、村を出て自分の活躍の場を探して飛び出していくのも良いことだと、それも子供たちに伝えてほしい。そして将来村に戻らなくても故郷を思って何か力になれることをする方法もあると思う。</li> <li>・ふるさと郷育、中学生の職場体験と通じて愛着を持ってきていると思うが、実際大学等を出たときには都会に就職する気持ちが大きいのではないか。</li> <li>・目標に向け順調に進捗していると思われる。宮田村の一村一校の特長を活かした取組みや、地域人材の活用によって魅力的な教育コンテンツを提供して点が非常に評価できる。こうした宮田村らしい取組みを今後とも継続していくことを望む。</li> <li>・キャリア教育フォーラムは毎年参加させていただいているが毎回感動が多い</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	3-2-5 「うちの子 よその子 みやだの子」子どもの見守りプロジェクト			
ねらいと効果	宮田村では、村民の方々が一丸となって子育てに取り組む「うちの子 よその子 みやだの子」というフレーズを掲げています。そこで、共働きの夫婦でも安心して子育てができるよう、地域が一体となって子どもの見守りを推進します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	子どもの朝の通学時や夕方の帰宅時など、子どもの安全を確保するため学校周辺、通学路などで、地域の子どもを見守ります。	安全見守り隊による通学路での見守りを実施	A
	②	子どもたちと「おはよう」「おかえりなさい」と元気に挨拶を交わし、大人が子どもたちのよい手本となることを目指します	みやだボンドプロジェクトやPTAが小中学校校門で毎週あいさつ運動を実施	A
	③	「子どもの安全見守り隊」への参加を推進します。	登録者179名、高齢化等により活動が低迷化しているため再構築を1年間を通じて実施する。現在再登録者 50名	C
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 「子どもの安全見守り隊」への登録人数(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	205	70	70	50		
	達成率		34%	34%	24%	0%	0%
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	教育委員会						
改善 (Action) 今後の方針	子ども安全見守り隊については登録者が高齢化し、活動が低迷している。今後活動について再構築をするため1年間かけて検討を進めていく。						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内の子どもたちは「おはようございます」や「こんにちは」がしっかり言えます。取り組みの成果で素晴らしい。</li> <li>・子ども見守り隊の活動はかなり低迷を感じます。ただ、登録者が来てくれることを待っていても見込めないと思う。</li> <li>・子どもに限らずの施策に転換しても良いのではないかと考える</li> <li>・校門での毎週のあいさつ運動は実施されているが、地域の一般の住民が自分も含めて十分できていないのかなと思う。</li> <li>・見守り隊の再構築に期待</li> <li>・見守り隊などのコミュニケーションは良いと思うがそれだけで良いのか</li> <li>・目標に向け順調に進捗していると思われる。「子どもの安全見守り隊」は、地域の協力なしでは成り立たない仕組みであり、区や警察、民生委員、行政相談員等とも連携しながら引き続き活動を継続していただきたい。</li> <li>・見守り隊の活動は毎回感謝している。今後は確保が重要になる</li> <li>・見守り隊については毎日ウォーキング等に合わせて実施してもらえればよい。混交づくりをきっかけに呼びかけをするなどの方法を検討すればよい。</li> </ul>						



宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	② 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます			
プロジェクト名	みやだ版ネウボラプロジェクト			
ねらいと効果	neuvola(ネウボラ)とは、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する支援制度を指します。みやだ版ネウボラは子育ての不安な気持ちや悩みを抱え込んでいる村民を支え、安心して子育てができるよう支援するためのものです。村内に居住する子育て世帯が、宮田村で安心して子どもを産み、育てることができる環境を実現するため、子育て世帯への経済的支援なども含めた子育て施策の充実を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	保健師を活用し、妊娠期から就学までの健康や子育ての相談を行います。	うぶごえ講座(妊娠期)、赤ちゃん訪問、すくすく広場で内外で相談を実施している。子育て支援係と連携し情報共有して、より良い支援を継続。常時随時相談。	B
	②	妊娠期から出産後における家事・育児の支援、産後の体調不安や育児不安などへの支援を行います。	手帳交付時から電話相談や電話連絡後の訪問等、実際支援も取入れて相談している。産後の支援、育児支援のため、ママサポート事業1件や産後ケア事業0件、母乳相談69件(医療機関委託)も実施し充実している。	A
	③	ファミリーサポートセンター事業との連携、ママサポート事業の充実など、地域一体となった子育て支援を行います。	ファミリーサポート事業は76世帯、延べ111人の利用。協力会員の研修を11回実施し、資質向上を図っている。	B
	④	誕生祝金や保育料助成などの補助制度の拡充を図ります。	保育料助成は拡充してきている。未満児を育てた世帯への支援を検討する必要がある。	B
	⑤	保育日数や保育時間の拡大等により、保育要望に応えます。	土曜日保育の実施はしている。休日保育は保育士の応募がなく実施できずにいる。平成27年のアンケートでは7%が要望しており必要性の検討が必要。	C
	⑥	保健師、看護師、保育士の再就職に対する不安を解消するための研修会等を開催します。	保育士の再就職研修は実施していない。	C
	⑦			
	⑨			

KPI	① 合計特殊出生率						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	1.74	1.68				
	達成率		97%	0%	0%	0%	0%
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	住民課、福祉課、教育委員会						
改善 (Action) 今後の方針	<p>・平成30年度は、ファミリーサポート事業の啓発として、ステッカー作成を予定している。子どもを送迎している協力会員の車に貼って広報する計画。          祝日保育は要望の調査が必要。</p>						
委員評価	委員意見						
B	<p>・困ったときに頼れる環境が整ってきているのは良いと思うが、肝心な保育士の充実が課題に関する          ・誕生祝い金や保育料助成などの補助制度の拡充はできていると思う。          ・保育時間の拡大は出産後の就職再開に繋がっていると思う。          ・実施されている内容が子育て世代のニーズに合っているのか疑問          ・住む場所は近くで親とのコミュニケーションがとれる距離でできる限り家族間の協力を使う          ・親世代も現状に沿って勉強していく          ・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。出生率は急激に向上するものではないため、結婚・出産・子育てに対する切れ目ない支援を今後とも継続していただきたい。また、保育士の人材不足は全国的な問題であるため、近隣自治体とも課題を共有しながら課題解決の方向性を検討していくことが求められていると思われる。          ・事業を積極的に行っていることはわかるが、出生率向上に取り組んでいただきたい          ・ファミリーサポート事業についてはそっと活動したい人もいる。ステッカーの作成については貼りたくない人も出てくるのではないかと。          ・ファミリーサポート事業についてはもっとPRが必要。          ・ファミリーサポートについては個人同士で預ける制度であるが、柔軟に対応している。集団託児等の要望もある。</p>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	快適で安全・安心な暮らしを守ります			
プロジェクト名	3-3-1 まちなか賑わい創出プロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	村民や多様な分野の事業者による空き家や空き店舗の活用、共同利用に対する積極的な支援を推進します。また、宮田村のコンパクトというメリットを活かして、子どもから高齢者まで幅広い年代の地域の人々が気軽に足を運べるコミュニティスペースの確保やイベントの開催を行うとともに、大都市圏からのアクティブシニアと協力して、まちなかや商店街の活性化を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	村民や事業者による空き家や空き店舗の活用、共同利用の促進により、まちなかに人の集まる場づくりを推進します。	MIYADA村人TERRACEを活用が始まった。しかし、さらに利用を増やす方法等の検討を法人とともに検討していく必要がある。	B
	②	「まちなか軽トラ市」など、多様な分野や職種等と連携したイベントを開催し、地域の人々に気軽に足を運んでもらうことにより、まちなかや商店街の活性化を図ります。	中心市街地活性化補助金を交付し、地元商店街主催によるイベントを実施	B
	③	大都市圏の市区町村と連携し、空き家などを活用した小規模・複合的で地域コミュニティとつながりのある宮田版CCRC(※)について検討をすすめ、アクティブシニアの移住・定住の促進を図るとともに、まちなかの活性化を図ります。	未実施。具体的な内容を再度検討し実施に向けて進めていく	C
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 空き家・空き店舗数	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	66	70	43				
	達成率		94%	153%	#DIV/0!	#DIV/0!		
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	みらい創造課、産業振興推進室、福祉課、社会福祉協議会						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかの空き店舗については所有者との調整をはかり活用について検討していく。</li> <li>・村人テラスを中心に地元商店街によるイベントを実施し、街中への集客を図っていく。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に移住してきているアクティブシニアの方がいれば発信の場を創出してみたらいいと思う</li> <li>・徐々に成果が出ていると思います。継続が大事。</li> <li>・まちなかは少しずつ区画が整理されてきて、街並みを美しく保っていこうという方向が感じられてよい。</li> <li>・村内についてもまちなかに出かけていこうということがなかなかない地区があるのも現状かと思う。駐車場を増やしてきていると思うがまちなかに行きやすい場所に広めの駐車場があるとよい</li> <li>・小学校や中学校がまちなかの近くにあるので、子供をきっかけに親はまちなか周辺へ行く機会が多いのではないではないか。子供の習い事の講座を開きたい方へ、低料金で利用できるスペースがあると、学校帰りの子が立ち寄って親も迎えに来たりとつながりができるかもしれない</li> <li>・アクティブシニアを都市圏から呼ぶには子育ての充実ではなく福祉の充実を前面に出す必要はある。こんなに高齢者福祉の整っている村は県内に一つもない状況を村民自体が知らない現状を何とかしてほしい。</li> <li>・まちなか軽トラ市は実施しているがお客の状況は少ないように思う。</li> <li>・村人テラスを中心にまちなかを活性化させることは良いと思うが、当事者である商店街の方や空き店舗の所有者の方が協力してくれる取り組みが必要。</li> <li>・軽トラ市は商工会が関わっているが農家が絡んでいないので農商工連携をどうするかと。根本的にまちなかプロジェクトをどうするのか。行政が主体となってそれぞれが連携できる様に検討する必要がある。</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。積極的に空き家や空き店舗の活用・共同利用をすすめている点が評価できる。MIYADA村人TERRACE等の利用者の拡大については、村民を対象とするのか、村外の方を対象とするのかによってアプローチが大きく異なるため、法人とともに多面的に検討していただきたい。</li> <li>・まちなか活性化について行政だけでなく、地元と連携して行っていただきたい</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	③ 快適で安全・安心な暮らしを守ります			
プロジェクト名	3-3-2 災害に強い宮田村プロジェクト			
ねらいと効果	行政の危機管理体制の整備や事前防災・減災に関する施策を進めることで安全・安心な地域をつくり、災害に対する不安を減らします。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	行政の危機管理体制の整備を進めます。	変更はなかったが、気象庁等の防災気象情報が充実してきているので、避難判断基準の見直しなど危機管理体制の整備も進めていく。	B
	②	災害時相互応援協定の締結など、自治体間の幅広い連携を推進します。	日本福祉大学友好協定自治体学習会に参加し、各自治体の活動を学びながら連携を深めた。	A
	③	民間企業等との災害時応援協定の締結を推進します。	新たに放送業者と災害時における臨時災害放送局開設運用協定、放送要請に関する協定を、また上伊那生コン事業協同組合と災害時における応援協力に関する協定を締結した。	B
	④	業務継続計画(BCP)の策定を推進します。	まだ具体的に進められていないが、県主催による策定研修に参加した。	C
	⑤	消防団員パスポートや、女性団員の加入促進・支援を行うことにより、地域防災の重要な主体である消防団の活性化を図ります。	消防団員世帯応援成金交付を行った。また、前消防庁長官を招いて消防団員向けの研修を行った。	B
	⑥	土砂災害警戒区域内に監視カメラを設置し、ケーブルテレビによる情報発信を行うことにより住民の防災意識向上、早期の自主避難につなげます。	防災訓練を通じて監視カメラ映像利用を周知。新田区では防災訓練時にカメラ設置場所を確認し理解を深めた。	A
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 市町村との災害時相互応援協定の締結数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	7	6	7	8		
	達成率		86%	100%	114%	0%	0%
	② 消防団の充足率(%)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	100	100	100	100		
	達成率		100%	100%	100%	0%	0%
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	総務課、建設課						
改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務継続計画の策定については、自前で策定できるよう研修にも参加しているので、関係課の協力を求めながら実行に移す段階にきている。</li> <li>・消防団員の確保に向けた優遇策も進めてきているが検証も行いながら、更なる支援策や負担軽減など消防団確保の取り組みを続けていく。</li> </ul>						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業との災害時応援協定の締結はさらにいろいろな内容で締結していく必要がある。</li> <li>・前消防庁長官の研修はとても良い内容だった。地震や自然災害時の消防団の動きを想定した訓練も必要だと思う</li> <li>・平日に災害が起きた時に村民がきちんと対応ができるのか</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。引き続き防災・危機管理の取り組みをすすめていただきたい。BCPIについては、策定するだけでは効果がないため、BCMSも含めて検討をいただきたい。</li> <li>・災害協定締結数こそ6件と多くなっているが、災害発生時に生かせるよう毎年何らかのアクションを起こすことも必要</li> <li>・地区ごとの危険個所のガイドブックなど細かいものを示す必要があるので検討してほしい。</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	③ 快適で安全・安心な暮らしを守ります			
プロジェクト名	3-3-3 安全・安心なむらづくりプロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	交通安全対策や防犯対策などに努めるとともに、村民の生活交通の整備や高齢者の見守り活動等を実施し、安心・安全な暮らしの実現を図ります。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	居住地を選択するにあたって、治安の良さは非常に大きな要因となります。そこで、宮田村においても区と連携した防犯パトロールなど一層の治安の向上を図ります。	防犯指導員を中心にPTAと村内の危険箇所点検を行ったほか、年末は防犯診断を行った。また犯罪の抑止、予防、犯罪発生後の事件の解明等を目的として宮田駅前に防犯カメラを設置した。	B
	②	車での移動が中心となる宮田村では、交通安全対策が重要です。特に、子どもや高齢者が安全にらせるような交通安全対策を推進します。	グリーンレーンの設置を進め、子供たちの通学路の確保を行っている。	B
	③	高齢者や障がい者などの生活交通手段の確保を図るため、福祉タクシー券の交付を実施するとともに、デマンド交通等についても検討を進めます。	75歳以上の高齢者全員に申請の勧奨通知を送付し、制度周知と申請の案内を行い、必要な方の利用に努めている。 デマンド交通の検討については未実施	B
	④	区や地域のアクティブシニアと連携して、移動販売の実施や配食サービスなどの見守り活動を実施し、高齢者等の交通弱者や買い物弱者が安心してらせる施策を推進します。	買い物弱者対策についてはアンケートを実施し現状把握をしてきた。結果をもとに平成30年度に事業出来るように進めていく。	B
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 市町村別刑法犯認知件数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	25件以下	35	22			
	達成率		71%	114%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	② 人身事故発生件数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	25件以下	34	12	18		
	達成率		74%	208%	139%	#DIV/0!	
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	総務課、みらい創造課、議会事務局、建設課、福祉課、社会福祉協議会						
改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯について犯罪は目標値で推移しているが、駒ヶ根警察署管内では特殊詐欺の前兆電話、ハガキ、メールなども多く出ており、引き続き警察と連携し注意喚起、啓発を行う必要がある。</li> <li>・アクティブシニアの活用については積極的に参加できる体制構築が必要。</li> </ul>						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前にカメラを設置するなど取り組みが積極的でよいと思います。</li> <li>・グリーンレーンは視覚的に効果があると運転者として感じる。せっかく設置されても色あせが激しい場所が目立ってきている。設置後のメンテナンスが課題だ思う。</li> <li>・今後も継続して結果が出ることに期待する</li> <li>・村民を事故から守ることにっては良い。</li> <li>・近年農家では盗難事件が数件起きている。事故も大事だが村民の生活を守るのであれば農家の作物の盗難に関しても目も向けてもらいたい。</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。引き続き取組みをすすめていただきたい。デマンド交通については、財政的な制約もあるため総合的に検討いただきたい。</li> <li>・アクティブシニアの活用とPTAとの連携が課題</li> </ul>						



宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	③ 快適で安全・安心な暮らしを守ります			
プロジェクト名	3-3-4 地域医療と介護体制の確立プロジェクト			
ねらいと効果	村内の医療機関と上伊那地域の主要病院との連携を推進するとともに、地域医療及び介護の連携を図り、地域で安心して医療や介護を受けられる体制づくりを推進します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	村内に医療機関を確保し、安心して医療を受けられる体制づくりを推進するとともに、在宅診療も視野に入れた医師の確保に努めます。	上伊那医師会等との懇談会で研究を進めている。医師確保は独自努力だけでは困難な状況。	C
	②	医療機関同士をネットワークで結ぶ地域医療連携システムの構築など、村内の医療機関と上伊那地域の主要病院との連携を推進します。	かかりつけ医と総合医療機関と連携している。連絡票を活用して早期発見に結び付いている。	B
	③	高齢者が自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指します。	国が市町村に実施を指示している「社会体制整備事業」、「認知症推進事業」、「総合支援事業」、「地域ケア会議の開催」を実施することができた。まだ開始されたばかりなので、今後実施(開催)しながら、効果的な内容を目指す。	B
	④	区や地域の関係団体と連携し、高齢者が住み慣れた家で療養・介護が受けられるよう、在宅療養支援体制の整備を推進します。	現在は、往診や訪問介護など在宅で利用できる介護サービスの充実や医療機関により体制は整備されている。更に連携を十分に行えるよう上伊那管内の市町村や医師会等関係者と連携して、事業の推進を行っている。	B
	⑤	サービス事業所連絡会等のネットワークを積極的に活用し、医療と介護の連携を図ります。	国が市町村での実施を指示する「在宅医療介護の連携事業」の推進により課題を抽出し、解決策を講じるため、広域に研究会を設置し、課題解決に向けた取り組みを行っている。	B
	⑥	介護関連資格取得のための研修会開催など、資格取得の支援を推進し、地域における介護人材の確保を図ります。	開催要件が厳しく開催に至っていない。	C
	⑦			
	⑨			

KPI	① 在宅介護率	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	85	79.47	78.8	82.6			
	達成率		93%	93%	97%	0%	0%	
	② 村内の一般診療所数	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	3	2	2	2			
	達成率		67%	67%	67%	0%	0%	
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	福祉課						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健予防係が医師確保を実施するのは困難。村として取組んでもなかなか難しい問題である。国や県の働きかけが必要。</li> <li>・医療と介護の連携については、医療機関が所属する医師会、歯科医師会、薬剤師会と、介護サービス事業者を委員とした委員会を立ち上げ、連携して、医療と介護が切れ目なく提供できる体制を構築するの課題を洗い出し、解決策を考えていく必要があります。ただし、事業の推進にあたり関係者に連携の必要性を理解していただき、合意形成を図りながら進める必要がありますので、時間を要します。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間のドクターバンクとの連携も選択肢と考えます</li> <li>・この資料を読んで知ることが多かった、個人的には子供が幼いころより斉藤先生に頼ることが多くご年齢を考えても今後の医療について考えていく必要があると思っている</li> <li>・医師の確保が難しいとのことであれば、医師がもう少し住民視点に立ってもらえるような働きかけが必要。「連携」とうたっていても、現状はそうではなく同じ目線で物事を言える環境を整えてほしい</li> <li>・区や地域の関係団体と連携し、在宅医療支援体制の整備の推進とはどういうことなのか。</li> <li>・村内の診療所の確保は重要な課題だと思う。時間がかかっても取り組みを続ける必要がある</li> <li>・今後単身世帯となると認知症高齢者や介護世帯が増えるのは必然である。また、子育て世代はそれ以上に医療機関は必要と思われるので今後しっかり検討を。</li> <li>・医師確保の問題については非常に困難な課題であり、行政も苦慮されていると思われる。引き続き研究をすすめていただきたい。</li> <li>・村内の医師不足について目標3、現状2で達成率は67%となっているが高齢化のためすぐに手を打つべき</li> <li>・医師確保については早急に手を打つ必要がある。奨学金制度等を活用もしくは新設する中で意思を呼ぶ手段の検討を早急にすべき</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	③ 快適で安全・安心な暮らしを守ります			
プロジェクト名	3-3-5 健康増進プロジェクト			
ねらいと効果	村民が主体的に健康の保持・増進に取り組む意識づくりや、地域が一体となって健康づくりを支える仕組みづくり推進します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	若い世代が健康的な生活習慣を身につけられるよう、学校教育等を通じた健康づくりを推進します。	小学生(5年生)にちびっこ健康サポーターを任命して、活動促進をしている。意識づけした行動(歯みがき、運動、バランス良い食事)ができています。	B
	②	メタボリックシンドローム健診や保健指導などを通じて、健康づくりに対する村民の意識啓発を図るとともに、村民の生活習慣の改善を図ります。	各健診、検診を受診するよう勧奨(再勧奨も実施している)し、結果について説明後に返却し、その後保健指導・栄養指導をしている。追加健診も本年度は実施し、指導を徹底することができている。	A
	③	介護予防事業の推進のみならず、介護支援ボランティア制度等を活用し、高齢者の社会活動への参加を促進するとともに健康寿命の延伸を図ります。	村社会福祉協議会と連携して、ボランティア登録者の増員の推進を図った。 シルバー人材センター連携して登録者数の増員の推進を図った。 今後ニーズに見合い人材の確保が必要。	B
	④	認知症予防の取組のみならず、認知症相談体制の拡充し、認知症・若年性認知症の方やその家族がくらしやすいむらづくりを推進します	「認知症初期支援集中チーム」を設置することができた。あわせて、認知症キャラバンメイトのフォローアップ研修と認知症サポーター研修を開催し、認知症を住民に対して周知活動を行えた。	B
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 健康寿命 男(年)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	81.14	80.14					
	達成率		99%	0%	0%	0%	0%	
	② 健康寿命 女(年)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	86.88	85.88					
	達成率		99%	0%	0%	0%	0%	
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	福祉課						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちびっこ健康サポーターの意識づけした活動は良いが、健康活動とは生来地道なものであるのもう少しPRしたい。保健指導や栄養指導は今後も継続実施する。</li> <li>・高齢者の社会参加の促進については、ボランティア及びシルバー人材センターへの登録者の増員に向け、従来の周知方法を変え効果的な方法を社会福祉協議会と共に選定し、実施する必要がある。また、現在実施している地域支え合いづくり協議体を地区ごとに設置し、地域で自主的な活動を創設することにより、今後高齢者の生きがいをつくり、生活支援の担い手を目指す。</li> <li>・認知症施策は、まだ地域住民に認知症の理解と見守り活動を行えるよう、認知症キャラバンメイトへのフォローアップ研修と認知症サポーター研修を開催できた。今後継続して、理解者と見守りの担い手の育成を推進する。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター研修を受講した。接客に関わる業種中心にいい機会になると思うので積極的なPRをするとよいと思う。</li> <li>・ちびっこ健康サポーターについては、どのような活動なのか知っている人は少ないように思う。</li> <li>・4年生で娘が認知症について学んだが、これがきっかけで家でも話ができ良かったと感じている。継続してこれからの高齢化社会の理解に繋げていけたらと思う。</li> <li>・ボランティアコーディネーターが機能していないと思える現状があり、委託先が間違っているとしか思えない。社会福祉協議会の本来あるべき姿を考える時だと思つづく</li> <li>・宮田村は担い手組織があるので連携して若手に指導してはどうか。高齢者が目的を失わないようにするため</li> <li>・目標に向け順調に進捗していると思われる。地域と連携して、引き続き取り組みをすすめていただきたい。</li> <li>・健康寿命こそ高い達成率となっているが今後は地域が一体となることが大切</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	④宮田村への新しい人の流れを作ります			
プロジェクト名	3-4-1 U・I・Jターン希望者の移住・定住促進プロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	宮田村の特長や潜在的な魅力をさらに磨くとともに、U・I・Jターン希望者に対する支援体制を整備し、村内出身者、近隣市町村や大都市圏の若者や子育て世代の移住を促進することにより、人口の社会減を抑制します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	空き家の活用や良好な住宅・宅地の開発を進め、魅力ある住環境を整備・創出します。	空き家バンクの活用を推進し、空き家の活用については進んできているが、活用できない空き家も多くある。	A
	②	長野県や県内市町村と連携し、広域単位で移住・定住相談機能の充実を図るとともに、移住・定住に関する補助制度の拡充・新設等により、U・I・Jターン希望者や子育て世代の移住・定住を促進します。	単独のセミナーや企業とのタイアップ事業の他上伊那広域での移住セミナー等の開催を進めてきた。(県外11回実施) 3移住件数:23軒60人	A
	③	学校給食における地元農産物の使用割合が50%を超えている村の特徴を活かした、子育て世代の移住・定住を促進します。	学校給食をテーマに村外へのPRを行い、田舎暮らしの本でも大きく取り上げてもらい、子育て世帯へのPRを進めてきている 子育て世帯の移住件数:13軒	A
	④	長野県内や大都市圏の農業高校と農家、工業高校と企業などの連携促進を支援することにより、宮田村のみならず上伊那地域への就業を支援し、宮田村への移住・定住を促進します。	就活バスツアーの開催や、安定協会等との連携した企業研究会の開催により、学生への就職支援を行ってきた。就活バスツアーについては高校生にも参加を広げてきた	B
	⑤	民間企業や長野県、上伊那地域の市町村等と連携し、自動車教習所とタイアップした就職準備合宿など、若い世代の人材を確保する仕組みの構築を推進します	夏の就活準備合宿や仕事フェス等上伊那の他市町村及び広域連合等と連携して新たな就活支援を構築してきた。	B
	⑥	不動産組合と連携し、村内の住宅情報の充実を図ります。	宮田に住もう推進協議会と連携し、村タイの宅地情報の共有を図り移住者への紹介を行ってきた。また空き家情報等についても共有を図り村内への移住に効果が出てきている。	A
	⑦	宮田村へのお試し居住や農家民泊などを積極的に推進し、定住意欲の醸成を図ります。	ベース宮田を積極的に活用してもらうとともに併せて村内への移住に向けて個別に案内をしている。農家民泊については未だ進んでいない	B
	⑧	中学校卒業後の生徒に対する情報提供等の切れ目のない支援を充実します。	ふるさと宮田ネットの運用開始。中学校卒業時に登録を促すための説明会を開催	B
⑨	ふるさとMIYADAネットを構築し、高校や大学へ進学し宮田村を離れた宮田出身者へ切れ目のない情報発信を行い、Uターンを促進します	ふるさと宮田ネットの運用開始。中学校卒業時に登録を促すための説明会を開催	B	

KPI	① 20歳～49歳の社会増減数	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	35	31	-10	4			
	達成率		89%	-29%	11%	0%	0%	
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	みらい創造課、産業振興推進室、建設課						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の活用については積極的に空き家所有者と交渉し進めていくために、納税通知作成時に空き家バンク制度の周知等を行っていく。</li> <li>・宮田に住もう推進協議会の会員と連携し情報共有を更に進め、要望の多い住宅の確保を図っていく。</li> <li>・大学生等への情報提供の方法を広域連合や県と調整し、広く情報がいきわたる方法を検討していく。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の活用については積極的に空き家所有者と交渉し進めていくために、納税通知作成時に空き家バンク制度の周知等を行っていく。</li> <li>・宮田に住もう推進協議会の会員と連携し情報共有を更に進め、要望の多い住宅の確保を図っていく。</li> <li>・大学生等への情報提供の方法を広域連合や県と調整し、広く情報がいきわたる方法を検討していく。</li> <li>・取組の姿勢が素晴らしい。</li> <li>・今の時代、仕事さえ何とかなれば家族とゆっくり田舎で暮らしたいと考えている若者は多いように思います。どの取り組みも具体的に進んでいてよいと思いますが、Iターンをさらに増やしていけたらと個人的には思います。宮田に在住の方が例えば親戚に声をかけて宮田に呼び寄せることも考えられると思うので、そんな人にも、その場合は「この企業でこんな働き方ができるかもしれないよ」とか宮田に住んでもしくは近隣市町村の仕事の可能性が分かりやすく提示できるとよい</li> <li>・空き家対策を今後も粘り強く取り組んでほしい</li> <li>・宮田村を卒業して宮田に帰郷した学生にヒアリングする</li> <li>・目標に向け順調に進捗していると思われる。村単独だけではなく、上伊那地域の企業との積極的な連携が評価できる。引き続き、U・I・Jターン希望者が宮田村に住みたいと思えるような環境の整備に努めていただきたい。</li> <li>・住みたい村日本一を積極的にPRする。空き家の情報をもう少し見やすく、利用しやすいように工夫を</li> </ul>							

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	④宮田村への新しい人の流れを作ります			
プロジェクト名	3-4-2 交流人口拡大プロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	地域の資源を活用した観光地づくりや、イベント開催を積極的に推進し、交流人口の拡大を図ります。そうしたことにより、宮田村の魅力を知ってもらい、来訪する人の中から将来的に移住・定住する人が出てくることを目指します。			
実施内容		計画 (P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	上伊那地域の自治体と連携し、県外の大学等からの合宿や研修の受け入れを積極的に行うため、合宿等への補助制度の拡充をすすめます。	合宿補助制度の実施と村内の宿泊施設への誘導を図った。合宿補助制度利用14件延べ2091人利用。	B
	②	長野県内の高校生や県外の大学生等を対象として、民間企業と村役場へのインターンシップを推進します。	大学生のインターンシップについては希望に応じて受入れを行っている。民間企業も就活と合わせて実施している。	A
	③	みやだクリテリウムや、みやだ高原ヒルクライムなどのイベントを積極的に誘致・開催し、交流人口の増加を図ります。	JBCFクリテリウムやヒルクライムに加え、中アヒルクライム、アサギマダラサミット&フェスティバル、レンゲツツジフェスティバル、山の日ジャズコンサート、信州DCイベント、銀座長野などのイベントを開催し、交流人口の増加を図った	B
	④	県外、インバウンド観光客などの受け入れのため、宮田版DMO(※)による観光振興、無料公衆無線LAN(Wi-Fi)環境や、宿泊施設でのクレジットカード決済環境の整備を推進します。	韓国からの修学旅行生、教育関係者及び企業視察の誘致とPRを実施。また、上伊那及び伊南DMO設立準備に向けた活動がスタート。	A
	⑤	長野県内外の自治体、民間団体等と連携した広域観光パンフレットの作成やスタンプラリー、新たなツアー等の企画により観光振興を推進します。	姉妹都市である愛知県田原市とのスタンプラリーの実施、石川県穴水町での特産品販売及び観光PRの実施。伊那路・木曾路パンフレットの作成。	B
	⑥	関係市町村や観光協会、観光事業者等と連携して、中央アルプスジオパーク構想や国定公園化を推進し観光地域づくりをすすめるとともに、地域の雇用創出を図ります。	中央アルプスジオパーク構想推進協議会が立ち上がりジオパーク認定へ推進していくと共に宮田版ジオパーク協議会を設立し独自の観光振興及び地域の発展を進めていく。	B
	⑦	宮田村の特徴である豊かな自然環境を保護し、長野県、上伊那地域の自治体や団体等と連携し景観の形成に努めることにより観光地としての付加価値を高めます。	中央アルプスの八丁坂登山道維持修繕工事における自然木材の使用している。	B
	⑧	宮田村の特徴である豊かな自然環境を保護し、長野県、上伊那地域の自治体や団体等と連携し景観の形成に努めることにより観光地としての付加価値を高めます。	中央アルプスの八丁坂登山道維持修繕工事における自然木材の使用している。	B

KPI	① 観光消費額(千円)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	649,924	590,840	611850	499760			
	達成率		91%	94%	77%	0%	0%	
	② 県外の大学等からの合宿や研修の受け入れ人数(人)	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	5268	4390		2091			
	達成率		83%	0%	40%	0%	0%	
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	産業振興推進室、建設課						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまゆき荘や観光ホテルの利用者が大幅に減少しているため、観光利用客消費額ともに減少している。事業者とともに呼び込める方法の検討が早急に必要。</li> <li>・平成29年度に策定した観光基本計画に基づき積極的に事業を展開していく。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊南DMO、上伊那DMOなど広域の連携を進める必要があると考えます</li> <li>・菅の台付近の活用に一工夫欲しい。</li> <li>・交流人口の増加は宮田を知ってもらう上でとても有効だと思いますが、村内にその内容が伝わっておらず残念な部分を感じる。特にレンゲツツジフェスはチラシだけ立派で内容が全然伝わらなかった。</li> <li>・こまゆき荘は以前とても気に入ってよく言っていたのですが、経営が変わってからは食事の質などいろいろ下がってしまっていて行かなくなってしまい村内なのに残念。</li> <li>・定期的に村民へ割引チケットなどがあったのも温泉に行く気になっていたのですが...</li> <li>・イベントにしても続けることに意味があるので最低〇年とスパンを決めて実施をしてほしい</li> <li>・合宿補助制度利用14件延べ2091人はすごいと思いました。</li> <li>・韓国からの修学旅行生の誘致の実施もさらに拡大してほしいと思う。</li> <li>・魅力的なイベントが増えて良い。無理なく継続できるように期待する</li> <li>・交流人口の視点を見直し目的も見直してみればどうか</li> <li>・積極的なイベント開催は非常に評価できる。一方、平成29年度の観光消費額が落ち込んでおり、近隣自治体の観光消費額の動向も踏まえて、落ち込みが一時的なものなのかを慎重に見守っていく必要があると思われる。</li> <li>・もう少し官民一体となった取り組みが必要</li> </ul>							



宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	④宮田村への新しい人の流れを作ります			
プロジェクト名	人材交流促進プロジェクト			
ねらいと効果	都市間交流や地域に住む外国人との交流促進を図り、地域の活性化を図ります。			
実施内容		計画(P)	実施内容(D)	評価(C)
	①	国内の自治体との都市間交流を推進するとともに、姉妹都市協定の締結をすすめます。	現在姉妹都市提携は田原市のみ。穴水町との交流をスタートしたが、姉妹都市協定の締結までは至っていない。	C
	②	小中学校での外国人による授業を推進し、英語教育の充実を図ります。	小中学校それぞれに1名を配置した授業を実施している。年間10回程度放課後を利用した小学生で希望する児童に英語教室を開催している。	A
	③	地域に住む外国人との交流を促進し、村民間の信頼感の醸成を図るとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。	4地区の分館で人権学習会を協働開催し、理解促進を図った。 分館事業への支援と交付金を実施。	B
	④	区の連携を推進し、区間で地域の課題を共有するとともに、連携・協働のもとで解決を目指します。	地区担当職員を各地区に配置。区との連携強化に努め、ワークショップ型の地区懇談会の開催を本年度行い地区の課題等を共有してきた	B
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 姉妹都市協定の締結						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	2	1	1	1		
	達成率		50%	50%	50%	0%	0%
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	みらい創造課、産業振興推進室、教育委員会						
改善 (Action) 今後の方針	<p>・実際に地域に住む外国人と地域住民の交流ができるように、外国の文化を学ぶ機会を公民館の講座等で実施していきたい。</p>						
委員評価	委員意見						
B	<p>・学校に外国の教師の方がいてくださるのは子供たちにとってもありがたいことだと思う。</p> <p>・小学校でも外国籍の友達がだんだんふえていると感じます。学校の地区行事等でご家族が参加しやすい雰囲気を作っていけるとそこから広がりが見られる可能性もあるのではと思います。</p> <p>・地域に住む外国人との交流ができていない。</p> <p>・分館の学習会では限られた人しか参加しないので多くの村民に興味を持ってもらう工夫が必要</p> <p>・外国人交流であれば海外との姉妹都市を考えてみては</p> <p>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。姉妹都市協定は、本来締結することが目的ではない。平時から他自治体と交流をすすめ、顔の見える関係を築いていくことが重要である。その結果として、姉妹都市協定等に繋がればよいと思われる。</p> <p>・野沢温泉村の例など良いところを参考にして交流のみだけでなく、協力して呼び込みをしていく</p> <p>・多くの外国人研修生が村内の企業に来ているので、その研修生との交流を深めたら良い</p>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	④宮田村への新しい人の流れを作ります			
プロジェクト名	3-4-4 宮田村ブランド力・発信力向上プロジェクト ※交付金対象事業			
ねらいと効果	宮田村には、宮田方式の農業や日本トップクラスの工業技術を有する企業が多くありますが、こうしたことはあまり知られていません。そこで、宮田村の魅力が村内外に積極的に発信し、イメージや知名度の向上を目指します。			
実施内容		計画(P)	実施内容(D)	評価(C)
	①	長野県内、特に上伊那地域を拠点とした民間企業と連携し、「住みたい・住み続けたい宮田」として情報発信を推進します。	上伊那地域で「上伊那LIFE」サイトを立ち上げ、移住やイベント等の情報発信を始めた。併せてSNSでの発信も進めている。また村のホームページを大幅にリニューアル。SNSの発信等を始めた。	A
	②	長野県内や大都市圏の高校、大学との連携し、宮田村のブランド力向上を図ります。	宮田村出身の高校生等とWSなどをする中でできることから実施していく	C
	③	長野県のアンテナショップと連携し、宮田村のブランド力の向上を目指します。	銀座NAGANOと県内市町村では初めての首都圏での合同PR事業を行った。また、平成30年度に首都圏でのPRをするための期間限定のアンテナショップの開業が決定し宮田村のPRを進めている	B
	④	フィルムコミッション等を活用した宮田村のブランド力の向上を目指します。	伊那谷フィルムコミッションや信州フィルムコミッションからの情報をもとに誘致しているが、今年度は実施件数はなかった。	B
	⑤	独創的なイメージキャラクターを制作・活用し、宮田村のイメージや知名度の向上を目指します。	みやさんについては村内での活動の他村外や首都圏でのイベントへの参加により知名度があがり始めている。	A
	⑥	積極的なイベント開催、新たな広告宣伝事業等により、宮田村のPRを推進します。	首都圏を中心に移住やふるさと納税を絡めたイベントに積極的に参加してきた。また、首都圏の企業等と連携したイベントの開催や来年度以降の計画も進んできている。	A
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 宮田村ホームページ閲覧数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	19983	16653				
	達成率		83%	0%	0%	0%	0%
	② 観光協会ホームページ閲覧数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	9704	8087				
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	みらい創造課、産業振興推進室						
改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村外への発信を積極的に進めていき、まずは宮田村を知ってもらう取り組みが必要。</li> <li>・ホームページやSNS等については常に最新の情報を掲載しいつでも新しい情報発信に努める。</li> </ul>						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課の職員方の取り組みが県外の人々に知られており、成果が表れていると思う。</li> <li>・首都圏中心に働きかけが進められている点は今後も続けてほしい。</li> <li>・日本有数の技術のある企業が多くあることは若者にとっても魅力を感じられるポイントだと思うのでもっと前面に出してほしい。</li> <li>・情報発信力に欠けるのであれば長けている人の力を借りればよい</li> <li>・宮田村の「何」を発信するのか検討が必要。</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。一方、長野県内や大都市圏の高校、大学と連携した宮田村のブランド力向上については未実施であるため、今後の方針も含めて検討をしていただきたい。</li> <li>・観光協会の在り方を検討する。住みたい村日本一をもっとアピールする</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	⑤ 宮田村の特長を活かした時代に合ったむらづくりを推進する。			
プロジェクト名	3-5-1 地域コミュニティ活性化プロジェクト			
ねらいと効果	宮田村は村民同士のつながりが深い村として発展してきましたが、一方で移住・定住者と村民との間の溝や、村民間の交流不足があるとも言われています。そこで、村民の交流を促進するとともに、都市住民を「地域おこし協力隊」として受け入れるなど、地域コミュニティの活性化を図ります。			
実施内容	計画(P)	実施内容 (D)	評価 (C)	
	①	行政が区と移住・定住者を仲介し、区の加入率向上を目指すとともに、そうした移住・定住者と村民との交流を促進します。	移住者へは区の紹介を含め区長や地域団体の方への紹介をする中で区に加入してもらうよう促している。	B
	②	区による高齢者の見守りや防犯・防災など、高齢者支えあい拠点施設等を活用し、地域の支え合いの支援を図ります。	地域での支え合いを住民に理解していただくために、「つどい」を3回3地区で開催し、地区で見守りや支え合いについての理解を深めることができた。	B
	③	宮田村には高校生が参加できる地域活動がほとんどありません。高校生が参加できるイベントなどを開催し、高校生の地域活動への参加を促進します。	赤穂高校同窓会宮田支部の主催で赤穂高校の声楽・器楽・吹奏楽クラブのコンサートを村民会館で開催し、多くの地域住民に聞いていただいた。	B
	④	都市住民を「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域コミュニティの活性化を図ります。	空き店舗の活用や婚活事業等により新たな取組が始まりだしている。	B
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
⑨				

KPI	① 地域おこし協力隊(人)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	6	2	4	6		
	達成率		33%	67%	100%	0%	0%
	② 区への加入率(%)						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	95	90	87.27	87.87		
	達成率		95%	92%	92%	0%	0%
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	みらい創造課、福祉課、教育委員会						
改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村民運動会等にボランティアスタッフ等として参加してもらえるように呼びかけていく。</li> <li>・地区の支え合い作りは昨年より行っている協議体の活動の中で掘り出した課題等をひろげ、地域で主体的に活動できりよう具体的な検討を進めていく。</li> </ul>						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支えあいの集いは地区において参加人数のばらつきがあかなりあるのを感じた。せっかくやっても参加人数が少ないもったいないと思う。</li> <li>・地域おこし協力隊の方は増えていると思うのですが、どの人がどんな活動をやっていたどんな成果があるか具体的に知りたいと思っているのではないかと思います。少し広報で取り上げられましたが活動だけをわかりやすくしたものがあるとよいと感じる。</li> <li>・協力隊についてはきちんとした目標設定、評価・成果を求めた方が良く、定期的に面談をして協力隊の困り感をなくすことと協力隊の課題抽出をしたらよい</li> <li>・地域おこし協力隊自身ももっと村民に溶け込む努力が必要</li> <li>・地域おこし協力隊の今後の活動に期待</li> <li>・村全体のコミュニケーションか各地区ごとのコミュニケーションのどちらに重点を置くのかで今後の対応が変わる</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。引き続き「地域おこし協力隊」の活用や区との連携のもと、取り組みをすすめていただきたい。とりわけ、「地域おこし協力隊」の任期がきたあとのフォローアップが、その後の定住意向につながると思われるため、丁寧なフォローをお願いしたい。</li> <li>・移住者にもっと宮田村のPRをしてもらおう。地域おこし協力隊の活動村民に見えないので活動を考える</li> </ul>						

宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	⑤ 宮田村の特長を活かした時代に合ったむらづくりを推進する。			
プロジェクト名	3-5-2 持続可能なむらづくりプロジェクト			
ねらいと効果	宮田村のコンパクトという特長を考慮しつつ、人口減少社会に対応できる持続可能な村民主体のむらづくりを協働で推進します。			
実施内容		計画(P)	実施内容 (D)	評価 (C)
	①	村民の創意工夫と自主性によって、人口減少社会に対応できる持続可能なむらづくりを実現するため、村民提案による事業に対して補助を行い、事業を推進します。	地域づくり支援事業を活用し、各区や団体の活動の支援を行っている。本年度は8団体の支援を行ってきた。	B
	②	採用された事業の実施については、協働で推進することを前提とします。	基本的に協働での事業採択となっており事業を展開してもらっている	B
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① 補助対象となった事業数						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値	15	9	11	8		
	達成率		60%	73%	53%	0%	0%
	②						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
	③						
		目標	現状	H28	H29	H30	H31
	数値						
	達成率						
担当	みらい創造課						
改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の村づくりを進めるために、水路や道路改修等にも活用できるよう対象事業の範囲を広げていく。</li> <li>・広く制度の周知を図り有効的に補助金の活用を促す</li> </ul>						
委員評価	委員意見						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり支援事業を活用した活動にはどういものがあるのか。活用の方法をもっと広報して住民に知ってもらうことが必要</li> <li>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。村民参加条例(仮)の検討も含めて、今後も協働のむらづくりをすすめていただきたい。</li> <li>・協働の意味を考えて提言箱をもっと活用する</li> </ul>						



宮田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価検証シート

基本目標	⑤ 宮田村の特長を活かした時代に合ったむらづくりを推進する。			
プロジェクト名	3-5-3 地域のむらづくり人材育成プロジェクト			
ねらいと効果	人口減少社会においては、村民の求める公共サービスのすべてを行政が提供することは困難であり、住民やNPO等との連携・協働が必要になります。そこで、地域活動のコーディネーターやむらづくり活動のリーダーなど、地域活動で活躍できるむらづくり人材を育成するための仕組みづくりを推進します。			
実施内容		計画(P)	実施内容(D)	評価(C)
	①	地域活動のコーディネーターやむらづくり活動のリーダーなどの育成のため、講習会などを開催し、地域で活躍できるむらづくり人材の育成を推進します。	地域づくり支えあい協議体の発足により、地域づくりの講演会や、各地区での地域づくりの検討を進め地区で活躍できる人材育成を進めている。	B
	②	むらづくり人材バンク(仮称)を構築し、行政や区の間でむらづくり人材に関する情報共有を図るとともに、多様な主体が参加できるむらづくりを推進します。	地域支え合うづくり協議体等の活動から人材バンクの発掘を検討していく	C
	③	地域住民と「地域おこし協力隊」との連携を推進し、むらづくりに新しい視点の導入を図ります。	現在6名の隊員を活用してそれぞれ活動をしている。空き店舗の活用や狩猟、観光振興、婚活等の事業を行ってきている	B
	④	むらづくり人材の行政職員への積極的な登用を進めます。	各地区1名程度の人材発掘を進めていく	C
	⑤			
	⑥			
	⑦			
	⑧			
	⑨			

KPI	① むらづくり人材バンク(仮称)登録者数	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値	11	0	0	0			
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%	
	②	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	③	目標	現状	H28	H29	H30	H31	
	数値							
	達成率							
	担当	みらい創造課						
	改善 (Action) 今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力隊の活動については広く住民の方に知ってもらうため広報やCATVを活用する。</li> <li>・村づくりの主体となる人材発掘や地域での活動を支援していく体制づくりが必要。</li> </ul>						
	委員評価	委員意見						
B	<p>・地域活動は上からリーダーを決めたところでうまく回っていくということではないと思うのでとても難しい問題だと思う。</p> <p>・既存の班や組のつながりをうまく活性化させていけるとよい。</p> <p>・生活支援コーディネーターも研修会後どうやって地域で活用するかの方が大切。だとするとコーディネーターがよほど活動しなくてはいけないがコーディネーターもどきをいっぱい作ることの方が意味があると考ええる。</p> <p>・協力隊の活動について活動を取り上げ村民向けに報告会を行えばよい。</p> <p>・地域おこし協力隊の活動をもっと村民に知ってもらう必要がある</p> <p>・村づくりの主体となる人材発掘はぜひ進めてほしい</p> <p>・おおむね目標に向け順調に進捗していると思われる。農業インターン制度等を活用して就農者の育成・支援を継続している点は評価できる。また、農業の六次産業化は非常にむずかしい取り組みであるが、積極的に商品開発などを実施しており、今後は販路拡大のための他自治体や民間事業者との連携がさらに求められると考えられる。</p> <p>一方、近年では消費者から農産物の安全性への関心も高まっており、安全で安心な宮田村の農産物のPRIに一層取り組むことを期待したい。</p> <p>地域づくり支えあい協議体が発足は評価できる。その効果が出るまでには時間を要するが、継続的に地域で活躍するむらづくり人材の育成に努めていただきたい。</p>							